

茨城県の景気判断について

11月9日に公表した茨城県金融経済概況では、県内の景気情勢の総括判断（全体としての判断）を、「引き続き厳しい状態にあるが、持ち直しつつある」と前回より評価を引き上げました。

今回は、個人消費、生産の判断を上方修正しました。以下、主な項目ごとにご説明します。

個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響により、サービス消費を中心に低水準となっているが、経済活動が再開するもとの、全体として持ち直しつつあります。

- 百貨店・スーパー販売額（9月）は、前年における消費税率引き上げの影響の裏が出たこともあって、5か月振りに前年を下回りました。基調としては堅調です。衣料品等の販売は持ち直しつつあります。また、食料品等の販売は巣ごもり消費などを受けて引き続き堅調です。
- 乗用車新車登録台数（10月）は、普通・小型車が13か月振りに前年を上回ったほか、軽自動車も3か月振りに前年を上回ったことから、全体では13か月振りに前年を上回りました。
- 家電販売は、引き続き堅調な巣ごもり消費やテレワーク関連需要を受けて、白物家電、調理器具、テレビ、エアコン、パソコン関連などを中心に堅調な売れ行きとなっています。
- 対個人サービス（旅行等）や宿泊・飲食サービス等の売上げは、低水準ながらも、経済活動が再開するもとの、政府や地方自治体の経済対策の効果などもあって、持ち直しつつあります。

住宅投資では、新設住宅着工戸数（9月）は、貸家系が前年を上回ったものの、持家と分譲が前年を下回り、全体では6か月連続で前年を下回りました。全体の流れとしては弱い動きが続いています。

公共投資では、公共工事請負金額（9月）は、3か月連続で前年を上回りました。全体の流れとしては振れを伴いつつも高水準で推移しています。

設備投資では、短観（9月調査）をみると、2020年度の設備投資は、感染症の影響により計画の絞り込みや先送りなどの動きが広がっているものの、一部で大型投資が進められているほか、凍結していた計画を経済活動の再開に伴い復活させる動きも一部にあって、全体では引き続き前年度を上回る計画となっています。

輸出は、国内外において経済活動が再開するもとの、持ち直しの動きがみられています。

これらの最終需要を反映した企業の生産活動をみると、鉱工業生産指数（8月・原指数）は、11か月連続で前年を下回りました。足もとでは、国内外において経済活動が再開するもとの、持ち直しています。

雇用・所得環境についてみると、有効求人倍率（9月）は1.19倍と前月並みとなりました。一人平均現金給与総額、一人平均所定外労働時間および常用労働者数（8月）は前年を下回りました。足もとでは、感染症の影響により、弱い動きがみられています。

上記のように、県内景気は、内外における感染症の影響から引き続き厳しい状態にあるが、持ち直しつつあります。住宅投資が弱いものの、公共投資や設備投資が堅調です。また、経済活動が再開するもとで、個人消費はサービス消費を中心に低水準ですが、持ち直しつつあります。輸出は持ち直しの動きがみられているほか、生産は持ち直しています。

先行きは、感染症への警戒感が残るものの、経済活動が再開し、感染症の影響が徐々に和らいでいくもとで、緩和的な金融環境、政府や地方自治体の経済対策の効果にも支えられ、県内景気は緩やかに改善していくとみられます。もっとも、こうした見通しは、感染症の帰趨や、それが内外経済に与える影響の大きさなどによって変わり得るため、不透明感がきわめて強いです。

今後、以下の点を中心に、注視していきたいと思えます。

<国内要因>

- 感染症が個人消費、企業活動（雇用・所得や投資、資金繰りを含む）に及ぼす影響の長さや大きさ（感染症の再拡大の影響を含む）
 - 経済活動再開のペースや規模、緩和的な金融環境、政府や地方自治体の経済対策による景気の下支え効果を含む。
- 感染症との共生に向けたIT技術の活用や新規需要への対応などの新たな取り組み

<海外要因>

- 感染症が海外経済に及ぼす影響
 - 感染対策と経済活動の両立に向けた取り組みの進展状況とこれを受けた各国・地域での需要、サプライチェーンの回復動向、各国・地域の経済対策の効果を含む。

2020年11月9日
日本銀行水戸事務所長
鈴木 直行